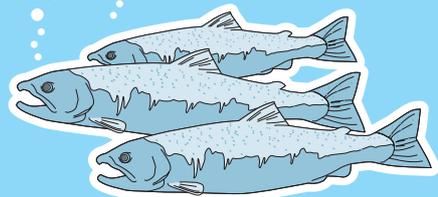


ビワマス通信

vol.7



生物多様性の保全を進めるモデル事業

天野川に琵琶湖固有種のビワマスが遡上できる環境をつくってまちづくりを進めようと、市では県や関係機関とともに「天野川ビワマス遡上プロジェクト会議」を設置しています。

天野川ビワマス遡上プロジェクト会議
事務局
経済環境部 環境保全課(伊吹庁舎)
☎58-2230
☎58-1630

プロジェクト活動 フォトレポート①

五感で楽しむビワマスイベント ビワマスシンポジウム・紅葉ます祭りを開催

11月18日、秋が深まる醒井養鱒場で、地域の豊かな自然やビワマスの魅力に触れることを目的に、ビワマスシンポジウムと紅葉ます祭りが開催されました。

シンポジウムでは、琵琶湖博物館の藤岡上席総括研究員、徳島大学の浜野教授、ビワマス倶楽部のメンバー、泉市長などが登壇し、ビワマスやビワマスを取り巻く地域の自然環境に対する思いについて語り合いました。これまでからビワマス遡上プロジェクトの魚道設置などをご指導いただいている浜野教授は、「魚道

が魚の通り道としてだけではなく、みんなが集える憩いの場所になれば」と話され、ビワマス倶楽部の活動に参加している滋賀県立大学の石川和也さんは「実際にビワマスが産卵している姿を見て感動した。若い人にもっと参加してもらって、魚道を上流にまで広げていきたい」と、生命の営みを目の当たりにした感動を話しておられました。最後に、泉市長が、「このプロジェクトが豊かな自然の再発見となり、ますます米原市が活性化していけば」と今後の活動に期待の言葉を述べ、シンポジ

ウムは幕を閉じました。

また、紅葉ます祭りは醒井養鱒場の主催により、毎年開催されているもので、この日の会場には、塩焼きやみそ汁などビワマスを味わう振る舞いコーナーや、ビワマスの生態に関するパネル展示コーナーが設けられたほか、市もプロジェクトの取り組みについての展示やビワマスの卵を家庭で育てる「冷蔵庫ふ化実験」用の卵の配布を行いました。ペットボトルを持参した子どもたちは、卵に興味津々で、オレンジ色をした小さな命に目を輝かせていました。こうした取り組みを通じて、子どもたちに地域の自然や命を大切に思う心を育んでいくこともプロジェクトの目的の一つです。



シンポジウムでは、それぞれのビワマスへの熱い思いが語られました。



子どもたちも卵を手にとり、にっこり。ぜひ春の放流イベントにも参加してくださいね。



ビワマスの卵を受け取る参加者のみなさん。約120人の市民のみなさんに実験にご協力いただくことになりました。



会場内には、ビワマスの生態などを紹介するパネル展示や映像放映を行って、ビワマスを身近に感じていただきました。

みんなで育ててるビワマスの赤ちゃん 息長小学校でビワマスふ化実験スタート!

息長小学校内には、天野川からの水路が引かれていて、川は子どもたちにとつて身近な存在です。そんな息長小で、天野川ビワマス遡上プロジェクトの一環として、5年生の子どもたち40人がビワマスふ化実験に取り組んでいます。

実験は昨年の11月22日にスタートし、この日は特別授業として、琵琶湖博物館の藤岡上席総括研究員からビワマスの生態などについてのお話を聞き、その後、実験の方法や注意点、醒井養鱒場の歴史などについても学習しました。はじめてビワマスの卵を見た子どもたちからは、かわいいなど大きな歓声が上がっています。

した。

実験に使っているふ化実験装置は、校内を流れる天野川からの水路の水をポンプでくみ上げ、小屋の中に設置した水槽に水を流す仕組みになっています。子どもたちは水槽のビワマスの卵を毎日観察し、実験開始からおよそ1週間後の11月29日にはふ化第1号が確認され、12月上旬にはほぼ全てのビワマスたちが順調にふ化しました。(約1,000匹)

今回の実験でふ化したビワマスは、4〜5cm程度になるまで小学校で飼育され、3月には天野川に放流される予定です。ビワマスは、3〜5年かけて琵琶湖で成長し、産卵のために再び生まれ育った川に戻ってくる習性を持っているので、天野川に戻ってくるのが楽しみです。また、この飼育および観察を通して、琵琶湖の固有種であるビワマスや身近な河川など地域の自然について、子どもたちの関心が高まることを期待されます。



今回の実験でふ化したビワマスは、4〜5cm程度になるまで小学校で飼育され、3月には天野川に放流される予定です。ビワマスは、3〜5年かけて琵琶湖で成長し、産卵のために再び生まれ育った川に戻ってくる習性を持っているので、天野川に戻ってくるのが楽しみです。また、この飼育および観察を通して、琵琶湖の固有種であるビワマスや身近な河川など地域の自然について、子どもたちの関心が高まることを期待されます。

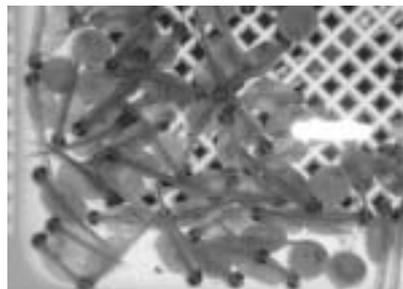
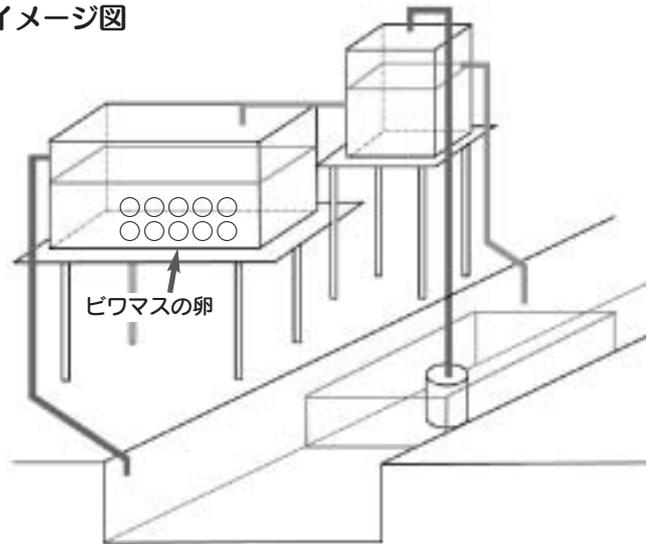


ビワマスの生態の話を真剣に聞く子どもたち。自分たちが育てたビワマスが天野川に戻ってくるのが楽しみだね。



養鱒場の養殖ビワマスの唐揚げを試食し、地域の自然がむ食文化についても学習。ビワマス倶楽部のメンバーの方に先生役としてご協力いただきました。

息長小学校のふ化実験装置イメージ図



この実験装置は、天野川からの水路の水をポンプでくみ上げて、ビワマスの卵が入った水槽に水を流す仕組みです。

無事にふ化したビワマスの稚魚たちは元気に泳ぎ回っています。